



2020年6月号

検査室だより

爽やかな風が吹く中、時折ムシッとしたものを感じるようになりました。確実に季節は移りかわっています。皆様お変わりありませんか？

「コロナ疲れ」に「コロナうつ」。初めて経験する緊急事態宣言で不安やストレスがたまります。カラダのあちこちに不調が現れ体調がイマイチという方もいらっしゃるでしょう。「胃の辺りが痛いなあ」というあなた。ストレスではなくてピロリ菌が悪さをしているかも・・・

ピロリ菌は胃の中で生活している細菌です。「胃の中はめっちゃ強い酸性の胃液があるのになんで？」と思いますよね。ピロリ菌は自分で作ったアンモニアで胃液から自分を守っているのです。そして自慢のひげをヘリコプターのようにくるくるまわして胃の中を移動します。そのアンモニアが私たちの正常な胃粘膜を破壊していくのです。アンモニアで炎症がおきた胃に塩分の高い食事や喫煙、ストレスなどの要因が重なると胃潰瘍や十二指腸潰瘍などのリスクが一気に高まります。また、炎症が長引くと胃がんになりやすいともいわれています。ピロリ菌の感染は幼少期の環境に左右されます。保菌している親との濃密な接触（離乳食の口移し）や、糞便に汚染された水や食品を介して感染するといわれています。幼少期の胃酸はそれほど強くなく、分泌量も少ないのでピロリ菌には「もってこい」なのです。大人同士のチュー♡や回し飲みなどで感染しないのは胃酸が強いからです。ピロリ菌にかかっているかどうかの検査はいろいろあります。胃カメラや血液検査、便、尿、フーッと吹く呼気で検査することもできます。もしかかかっていても飲み薬で除菌することが可能です。胃の健康のためにも、人間ドックなどを受ける機会があれば検査してみてくださいはどうか。



何をするにもビニールで仕切られた社会になってしまって哀しい毎日です。ビニールもマスクも全部とっばらって本当の笑顔でお話できるまでみんなでがんばりましょう。

公衆保健協会 検査室

